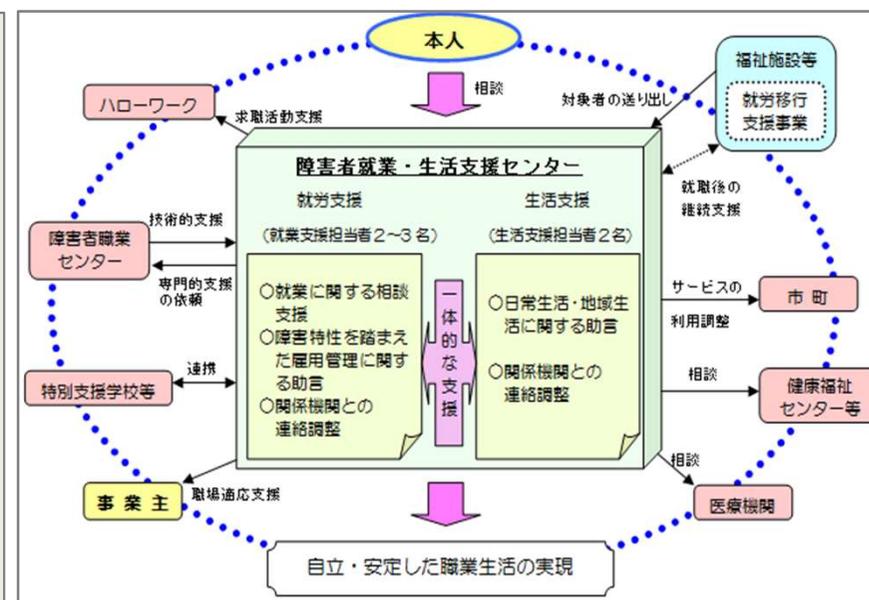


札幌障がい者就業・生活支援センター たすく

2018 (平成30) 年度 活動報告書

報告内容

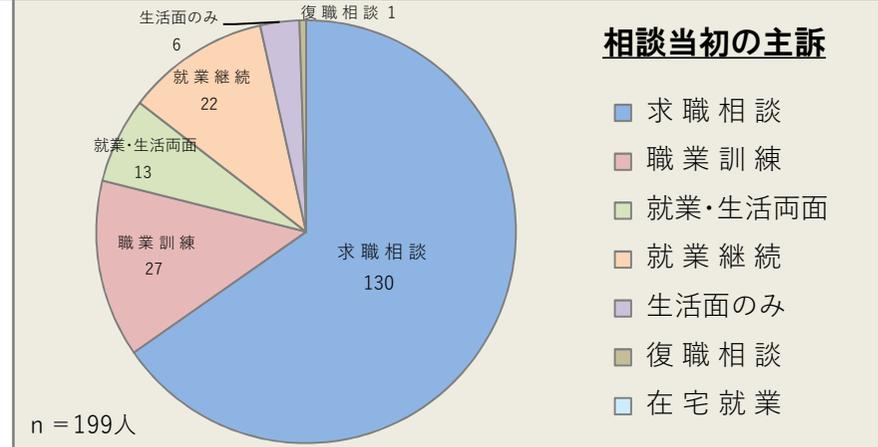
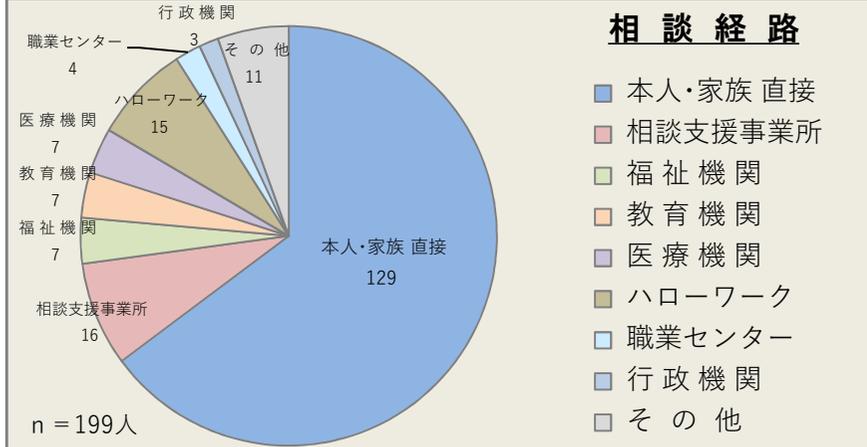
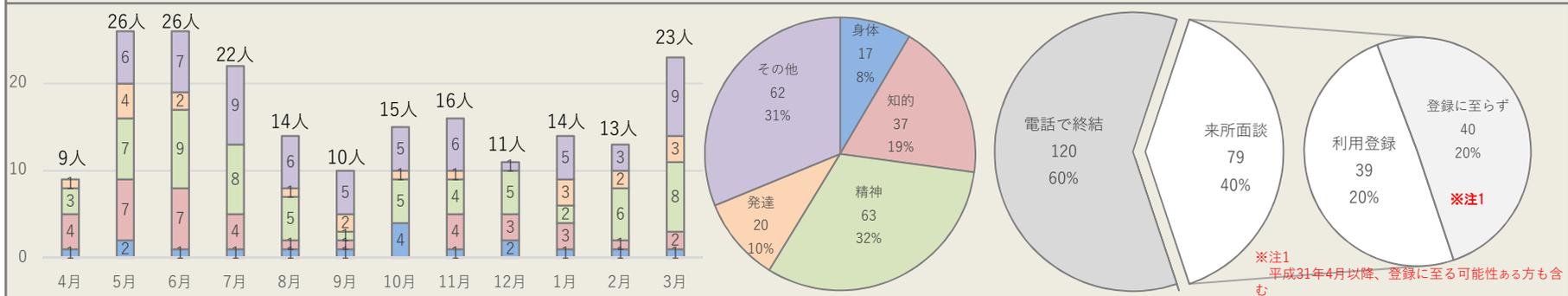
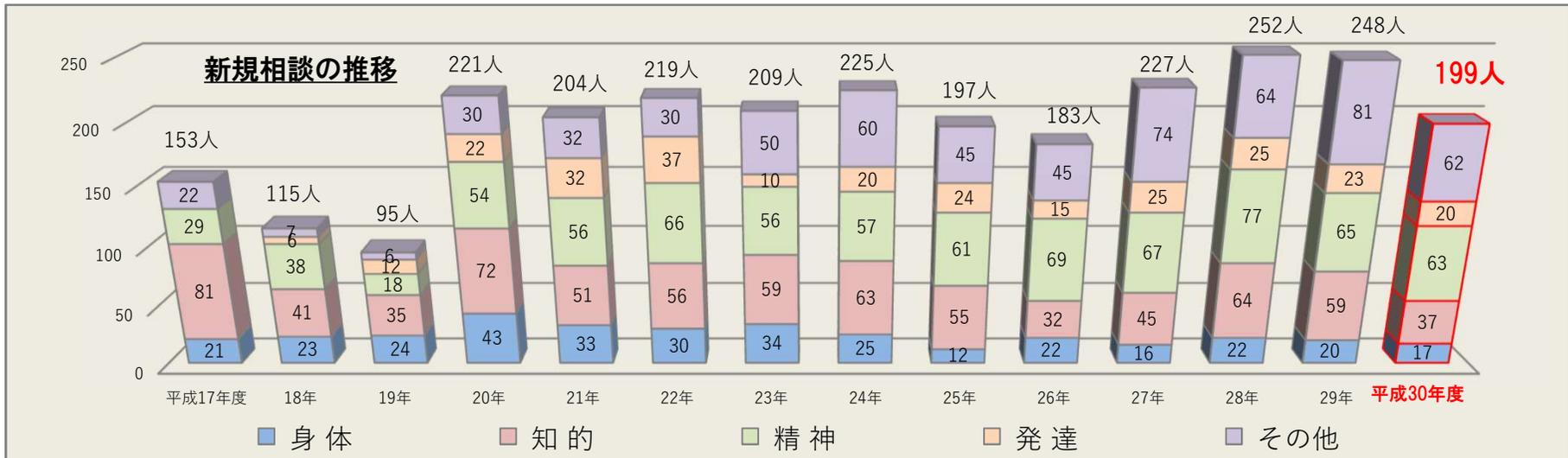
1. 新規相談の状況
2. 登録者の状況
3. 相談支援の状況
4. 就職者の状況
5. 職場実習等の状況
6. 就労系サービス利用開始の状況
7. 企業からの相談状況
8. まとめ



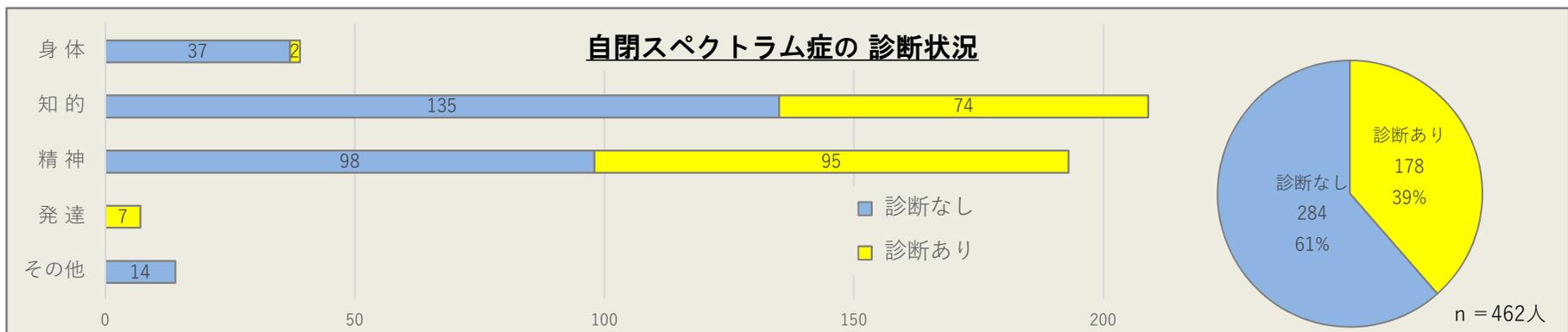
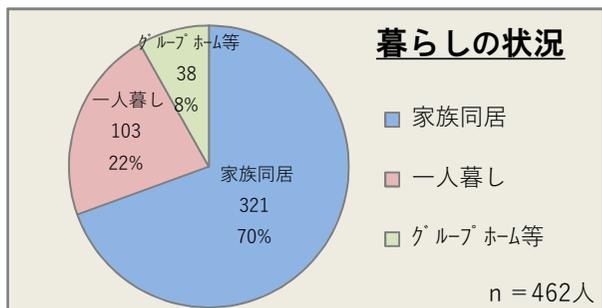
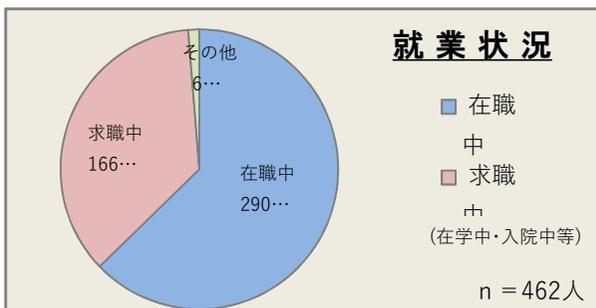
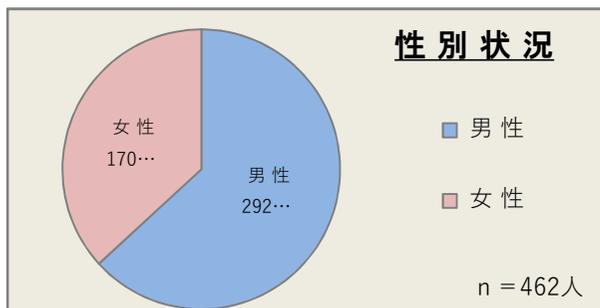
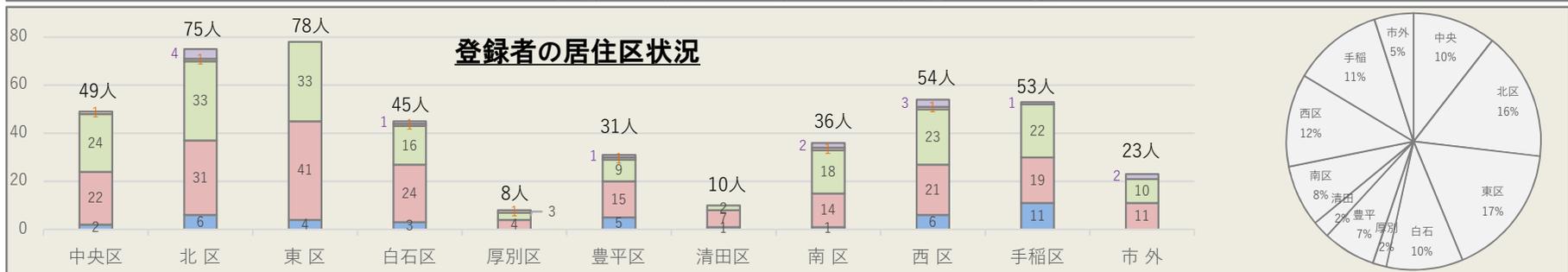
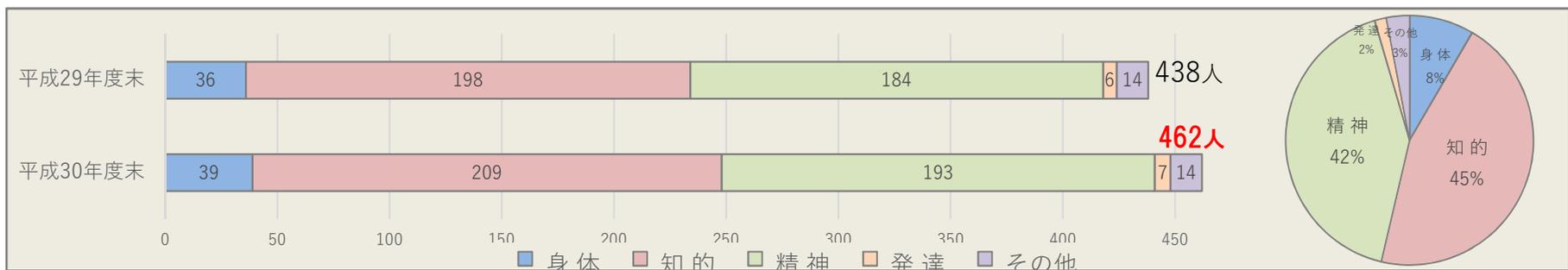
- ◆ 障がい種別、手帳の有無を問わず、相談支援を行っています。
(職業リハビリテーションの対象者)
- ◆ この報告書では、障害者手帳の交付を受けておられる場合は、自閉スペクトラム症・高次脳機能障がい・難病等の診断がある方についても交付された障害者手帳の種別で人数・件数等を計上しています。

2019年 4月 11日 作成

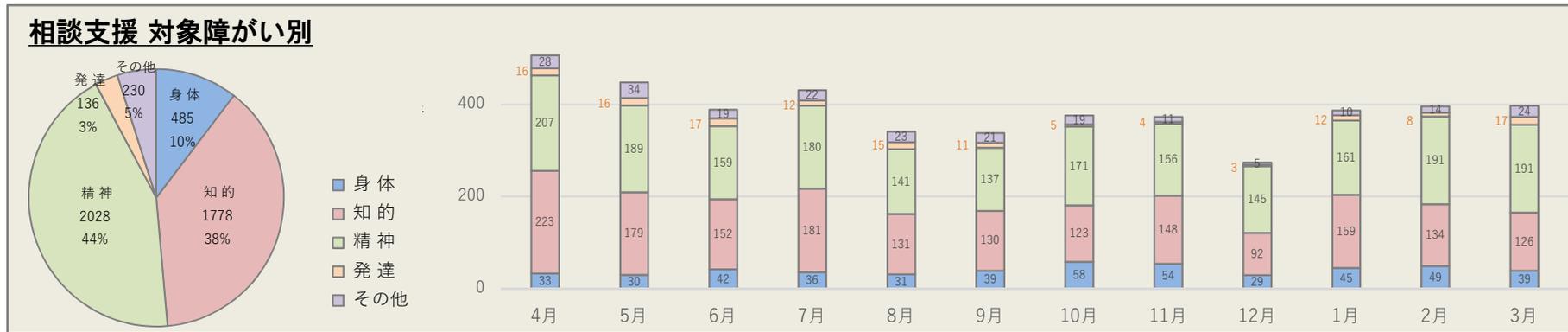
1. 新規相談の状況 新規相談 199人



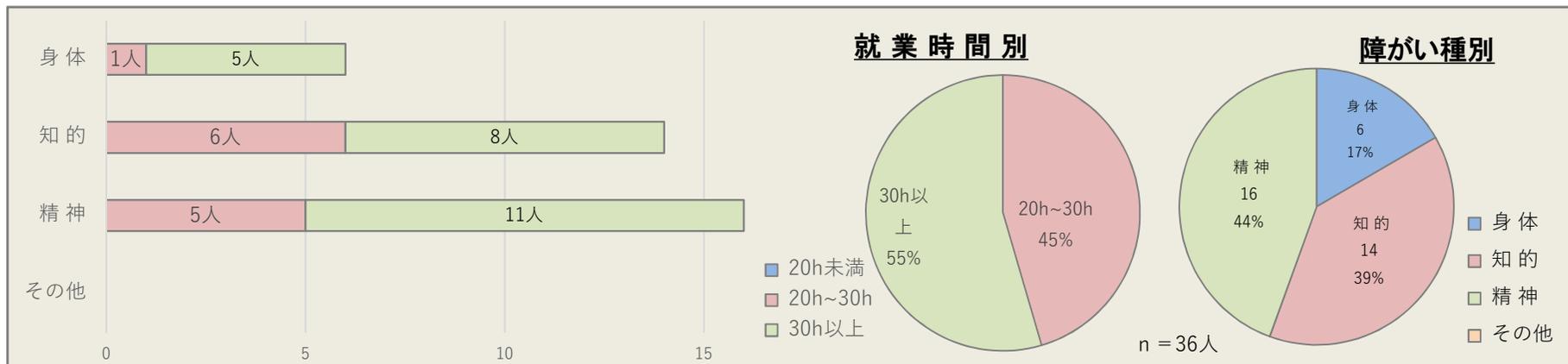
2. 登録者の状況 登録者 462人



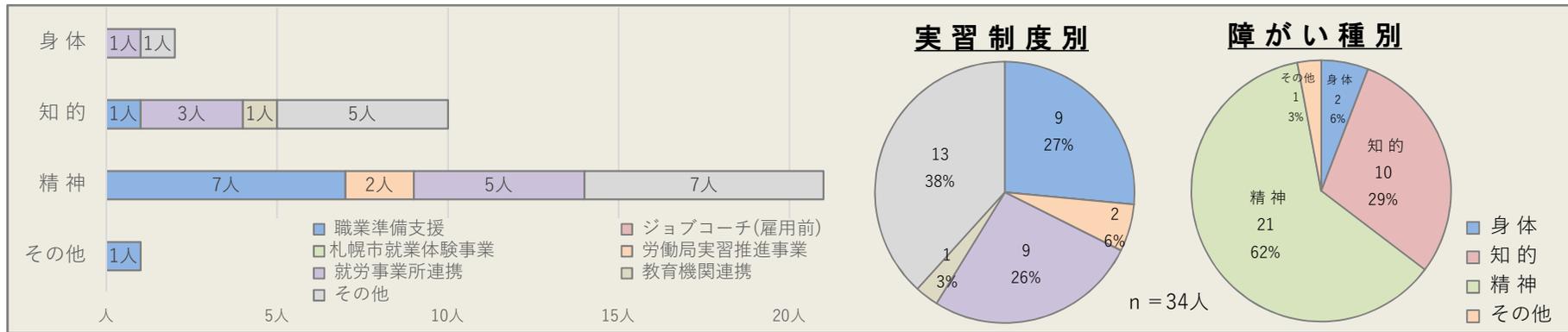
3. 相談支援の状況 相談支援件数 4,657件



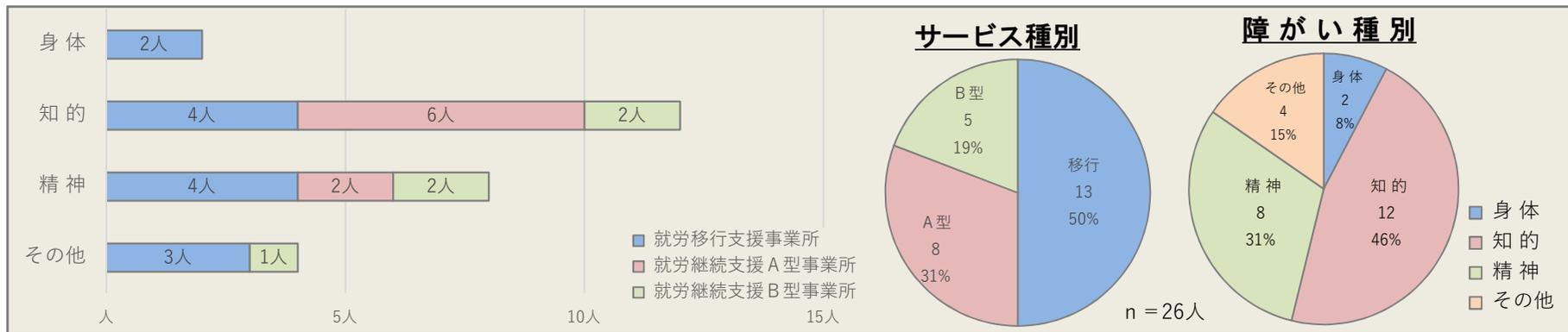
4. 就職者の状況 就職者 36人



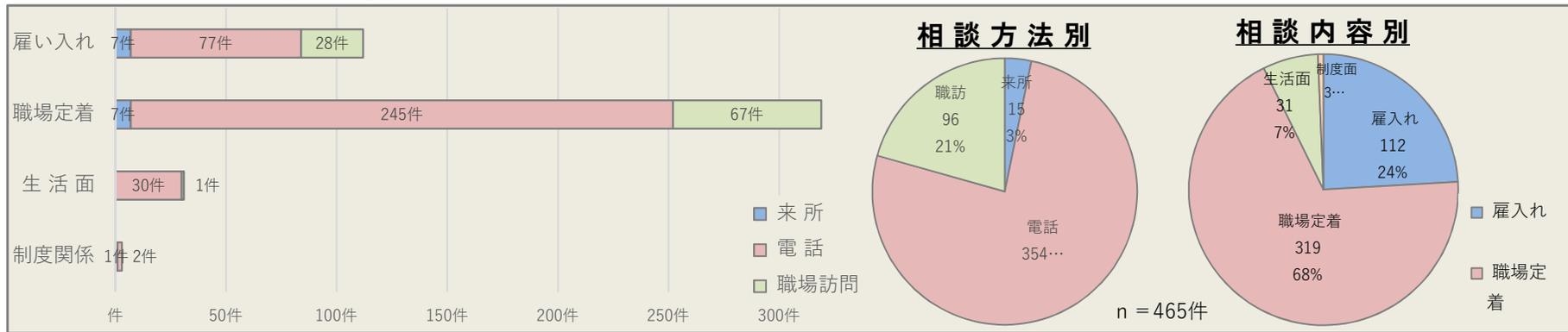
5. 職場実習等の状況 職場実習等 34人



6. 就労系サービス事業所 利用開始の状況 利用開始 26人



7. 企業からの雇用管理等の相談状況 相談 465件



8. まとめ

- ◆ **職員体制**（配置基準 雇用安定等事業4名 + 生活支援等事業1.5名 = 5.5名）
 - ・ 5名（配置6名、内1名が育休中）体制で事業スタート。育休中の職員が保育園入園できず年度明けまで育休延長。8月に法人内異動で1名が入れ替わり、センター長が5～8月病気休暇、職員1名が2～3月病気休暇など、実質的には4名体制となってしまう期間もあった。
- ◆ **新規相談の状況**
 - ・ **199人**（前年度比49人減）、4年ぶりに200名を下回った。
内79人(39.7%)に来所等相談を対応しているが、120人は電話での相談で終結している。
毎週1～2人の初回相談を対応。電話～初回面談のお待たせ平均期間は30日間（昨年度と同じ）であった。
- ◆ **登録者の状況**
 - ・ 平成29年度末登録者438人 - 2年以上相談支援のなかった29人を登録抹消 = 平成30年度当初 409人。
相談支援を進める中で53人を新規登録、平成30年度末の登録者は**462人**となった。
 - ・ 自法人サービス利用者は13人(ワークス翔 移行:2人・B型:3人、サポートinサッポロGH:8人) 登録者の2.8%。
- ◆ **相談支援の状況**
 - ・ 登録者・新規相談者を含め434人の支援対象者に対し、**4,657件**の相談支援を対応。
今年度より厚生労働省の指示に合わせて計数方法を変更（支援対象者本人以外への電話・来所・訪問などはカウント対象外に、1名に対し日に複数回の電話・来所・訪問などがあっても1回とカウント等）したため、昨年度比▲5,024件と大幅に減少した。ペア担当制を継続している。
- ◆ **就職、職場実習の状況**
 - ・ 職業準備支援及び職場実習 **34人**。 目標値40人には届かなかった（達成率85.0%）
 - ・ 就職者 **36人**（目標値30人）。就職者の内、今年度末時点で勤続されている方が33人（定着率91.7%）
- ◆ **就労系サービス利用開始の状況**
 - ・ 今年度も実施した「就労移行支援事業所 状況調査」等を参考に希望者に情報提供し、見学同行や比較検討相談など支援を進め、**13人**が就労移行支援事業所の利用を開始された（内 自法人ワークス翔は1人）。
- ◆ **企業からの相談状況**
 - ・ 104社に対して**465件**の相談・支援を対応。「職場定着」に関する相談が最も多く319件（68.6%）。
- ◆ **平成30年度を振り返って(重点目標を中心に)**
 - ① 新規相談から初期対応のスムーズ化。職員欠員があったが、初回相談までのお待たせ平均期間を昨年度と同等にキープすることができた。
 - ② 昨年度からスタートした「札幌職リハ連絡会議」。今年度も2回開催。ハローワークとナカポツの連携強化にむけた取り組みを試行錯誤しながら進めている。

